



(公財) 兵庫県園芸・公園協会 花と緑のまちづくりセンター

米国の公園から学ぶ

第4回 「学校の校庭を公園に変える！」

兵庫県立大学大学院 准教授／

兵庫県立淡路景観園芸学校 主任景観園芸専門員 嶽山 洋志



公園緑地の計画論は、計画的かつ機能的にネットワークさせるモデルから、近隣住民の利用や活動を優先した Activity-based Model へと大きく転換しています。このようなコミュニティ活動の場としては「公園」が日本では主に使われていますが、防災や子育て支援、健康づくりなど、現在発生している多様な分野横断型の地域課題解決には、「学校」を拠点にした地域づくりが有効との考えが米国では主流であるように思います。

具体的に、米国ニューヨーク州を中心に整備されている「Schoolyard Park」は、学校の校庭を公園のように再整備し、放課後や週末にコミュニティに開放しています。結果、約110万人の市民が徒歩10分以内で Schoolyard Park を利用できる生活環境を得て、多様なコミュニティ活動が展開されています。

また、カリフォルニア州でも「Living School Ground」と呼ばれる、校庭をエコロジカルな環境へ改善する活動が盛んで、特にコミュニティと協働することによって、お互いの親密度が高まり、子どもたちが身体的・精神的・社会的健康を得ることに繋がるとされます。

さらに米国だけでなく世界で展開されている

「Edible Schoolyard Project」は、学校菜園とキッチンプログラムが融合した取り組みで、健康と栄養、適切な土地の管理、コミュニティへの貢献など、多様な価値を有しています。校庭には、ハーブや野菜の庭、バタフライガーデン、コンポストエリア、温室、ネイティブガーデンなど多様な緑空間が整備され、栽培活動だけでなく収穫物を加工したり、販売したり、それらを食するパーティが開催されたりするなど、多様なコミュニティと連携したプログラムが行われています。

以上のような学校の校庭を舞台にしたコミュニティとの協働活動を通じて、子どもたちは多様な大人と接する機会を得ます。近隣住民や保護者の方々、お年寄り、大学生、あるいは、料理が上手な人、大作業が上手な人、農作業ができる人、などなど様々です。

考えてみれば日本の子どもたちが普段の生活の中で出会う大人は、学校の先生と、両親と、塾の先生ぐらいではないでしょうか。

これまで都市公園で蓄積してきたコミュニティデザインの経験を、これからは学校の校庭で展開することで、地域コミュニティを豊かにするだけでなく、子どもたちの社会との接点を多様にすることが出来るのではないかと考えています。



写真：New OrleansのEdible Schoolyard

令和2年度花緑いっぱい運動推進員ワークショップ報告

年間6回各地域で花緑いっぱい運動推進員の所属する緑化活動団体同志、また地域住民の交流を深め、花緑活動の活性化と地域の魅力向上を図る目的で、ひょうごガーデンマイスターなどを講師として開催しています。

新しい生活様式が浸透する中では、園芸のある日常の意味も広く再認識されそうです。地域でのボランティアによる花緑活動などに興味をお持ちの方のご参加をワークショップではお待ちしております。

また、花緑いっぱい運動推進員として活動できる方も募集しております。右側・3ページ下記連絡先よりお気軽にお問い合わせください。

但馬地域 浅井崇紀 講師 園芸家

6月12日(金) 養父市八鹿町道の駅ようか但馬蔵

新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言を受け延期になるも今年度1回目。「道の駅ようか但馬蔵」の入口にある花壇へ天候の兼ね合いもあり午前中に植栽を行い、午後に植栽した植物の説明などの講義を行った。

花壇中央の高木の周りに、カレックス、青・白のペチュニアなどで、優しい印象のデザインになりました。



浅井崇紀 講師



辻井玲子 講師

阪神南・北地域 辻井玲子 講師 ひょうごガーデンマイスター

11月9日 伊丹市森本伊丹市立神津小学校

コロナ禍で自粛が続きましたが、「花や緑の魅力的な効果」を小学校の花壇作りからコミュニティ活性を含め実施。午前に植栽に関する講義と、班分けを行い植栽デザインを各班で作成。午後は、デザインを基に色とりどりの花の植栽を実際に行いました。楽しさを共感し「花と緑とふれあいが大切」であることを実感できました。

中・西播磨地域 稲澤範治 講師 ひょうごガーデンマイスター

11月11日 相生市旭時計台花壇「ポート公園南」交差点前

海沿い道路の交通島への植栽。午前中は土壌改良と植栽する植物についての講義を行い、午後に花壇を15エリアに分け、参加者3・4人ずつのチームでエリアを担当し土壌改良から植栽を行った。交通島の植栽をバラや鮮やかなビオラなどで、地域を訪れる方々へ明るい印象を持たせることが期待されます。



稲澤範治 講師



東・北播磨地域 安尾昌子 講師 ひょうごガーデンマイスター

11月17日 稲美町六分にじいろふぁ～みん

平成30年度から3期目(最終)。当初予定していた植栽計画を花壇の現状に合わせ、計画を見直しての実施。午前は今までの復習と植栽植物の説明、並びに花壇をきれいに継続するためにはボランティア活動がいかに重要であるかとの講義を受ける。午後は、多年草を中心としたローメンテナンスな植物を中心とした植栽を行った。



安尾昌子 講師



稲澤範治 講師



丹波地域 稲澤範治 講師 ひょうごガーデンマイスター

11月25日 丹波篠山市味間新おとわの森子育てママフィールド～petit prix～

こども園跡地利用の子育て支援施設での花壇づくり。午前中から花壇枠組を組み立てる作業もあり、土壌改良に関する説明は同時進行。午後にスパイラルガーデンの水の流れ、日当たりの特性による植物の配置の指導を受け植栽を行った。今後の施設内を緑化していくうえで弾みとなってより一層魅力を持たせてくれそうです。

神戸地域 間島朗 講師 ガーデンコンサルタント

11月27日 垂水区名谷転法輪寺

転法輪寺に隣する広場内書庫脇への植栽。午前中は、土壌作りから植栽する植物とデザイン案作成、維持管理に関する講義を行いました。午後に土壌をならし午前のデザイン案に沿ってカンツバキ、アジサイなど丁寧な植栽を行いました。広場には既存でサクラの木もたくさんありますが、その前後の時期も楽しめる花壇が出来ました。



間島朗 講師



花緑いっぱい運動推進員募集

兵庫県では、花と緑あふれる美しい県土づくりを推進するため、花と緑のまちづくりに一定の技術や知識をお持ちで、地域における花緑活動のボランティアリーダーとして実践活動や人材育成に取り組んでいただける方を募集しています。令和3年3月1日現在、187名の方が花緑いっぱい運動推進員として活動されています。詳しくは、下記のお問い合わせ先へ、ご連絡ください。

(公財) 兵庫県園芸・公園協会 花と緑のまちづくりセンター
〒673-0847 明石市明石公園1-27
電話 078-918-2405 FAX 078-919-5186

[ひょうごはなまち] 検索





おめでとうございます！ 第22回「人間サイズのまちづくり賞」受賞

兵庫県では、県民の参画と協働による“人間サイズのまちづくり”を推進するため、平成11年度に「人間サイズのまちづくり賞」を創設し、安全・安心のまちづくり、環境と共生するまちづくり、魅力と活力あるまちづくり、自立と連携のまちづくりに寄与する優れたまちなみや建築物及び優れた功績のあった団体等を顕彰しています。

今年度は、90件のご応募の中から、知事賞8件、奨励賞10件を決定しました。

令和2年12月16日（水曜日）に兵庫県公館において表彰式が開催されましたので、花緑部門(知事賞)を受賞されたグループをご紹介します。



表彰式

昆陽南公園苗圃を活用する会（伊丹市） 代表 辻井 玲子

昆陽南公園の苗圃の有効活用を図るために、「みんなで楽しむ」をモットーに、平成17年11月にボランティアの会を立ち上げました。

種子から花苗を育て、学校園などの公共施設へ供給しています。また、低木や多年草を活用して「ローメンテナンス・ローコスト」の花壇維持管理、環境に優しい土づくりを目指しています。アヤメ、ホタルブクロ、カワラナデシコ、オミナエシなど由来植物を中心の花壇作りや、学校園に堆肥作りを指導するなど、活動も当初よりだんだん広がってきました。

花と緑を通じて学校園や地域住民をはじめ多くの人たちとのコミュニケーションを持ったことで、沢山のパワーや励ましの言葉をもらい、又県や市の支援のお蔭もあって、ここまでみんなで頑張ることができました。

「新型コロナ」で世界が一変しました。コロナ禍、花や緑が多くの人の心を癒し、元気づけていることでしょう。

「コロナ」の早い終息を願って、これからも学校園で子供たちの花育に力を入れ、次世代の人材確保や育成に取り組み、昆陽南公園から花と緑を広げ、「花と緑を愛する心」を次世代に繋いでいけるよう、みんなで頑張っていきたいと思えます。



地域住民の方と寄せ植え教室



学校園で子供たちに花育

田野口むらづくり協議会（多可町） 代表 吉田 兼道

田野口は、34軒85人の小規模集落です。少子高齢化が進む中、平成11年に行政が地域の活性化助成事業を開始し、当集落も衰退に歯止めを掛ける手立てもなく悶々としていた時にこの事業に取り組む事になりました。

平成12年に住民決議による『田野口むらづくり協議会』を立ち上げ、平成13年度より活動を始めました。

住民アンケートを募り、希望が多かった【住民が集う広場】の建設を5年計画で取り組む事になり、住民総出のボランティア活動がスタートを切りました。

集落遊休地約2,700㎡に周囲に溶け込んだ多目的日本庭園、万葉花木52種約1,000本、山野草18種約400株を植え、池、東屋、水琴窟、グラウンドゴルフ8ホールを配置した公園が、平成18年3月に、延べ900人以上の人出を要しての一大プロジェクトが完成しました。

隣接の松、杉、小楢林約5,200㎡には、ササユリ、ショウジョウバカマ、シライトソウ、ヤブコウジ等が自生し、合わせて約7,900㎡を『ひょうたん山いやしの森公園』と名付けて、整備、維持管理を続け丸20年になります。

年5回の作業内容は、草引き、草刈り、植栽、剪定、施肥、消毒等です。又、本年度より育苗事業に取り組み、撫子、桔梗、女郎花、藤袴の種を3月にまく予定にしています。



癒しの森玄関完成



癒しの森玄月風景



癒しの森ササユリ



神戸オリーブ園跡モニュメント



オリーブ園を守り育てる活動



神戸オリーブ園 想像図

インターナショナル オリーブアカデミー神戸（神戸市中央区） 代表 宇津 誠二

2013年1月に開かれた神戸外国人居留地研究会の新年例会において、「国営神戸阿利襪（こうべおりーぶ）園（えん）」というテーマの研究発表がありました。明治初期に日本で初めて神戸北野町に造られた国営オリーブ園について知る人は、この時いませんでした。この年、同テーマの講演が続けて4回開かれ、一般市民にも園の存在が知られるようになり、これを機にまちの歴史を後世に繋ぐため、私たちの団体が生まれました。以後オリーブを街に植え、そだてる活動を通して歴史伝承を続けています。

今では、街のいたるところに植えられたオリーブをご覧になった他府県の方々にも、神戸が、我が国におけるオリーブ発祥の地であることが知られるようになりました。

2018年には、神戸オリーブ園の復活を目指して神戸市西区押部谷果樹園で200本のオリーブが植えられました。今年3月には更に200本の植樹が計画されており、秋には神戸産オリーブからオリーブオイルや新漬け等の商品が生まれてきます。

歴史をベースとするオリーブによる街づくりは、神戸オリーブ園の復活とともに、新たな神戸ブランドの創出や、オリーブを核とするライフスタイルの提案へと広がっていきます。

グリーンメッセージ

地域創生のカタチ ～兵庫県多可郡多可町中区田野口むらづくり～

兵庫県参与・(公財)兵庫県園芸・公園協会顧問
石原 憲一郎

わが国では、1960年前半ごろから地域間の均衡ある発展を目指すため「地域振興」が重要な政策課題となり、内閣が変わるたびに「多極分散」「地方分散」「地域再生」「地方創生」など言葉が変わるものの、今の地方創生（兵庫県は地域創生）に引き継がれてきています。そして、その国土政策に基づき補助金や交付金、税制、さらにインフラ整備など各種政策を講じてきましたが、残念ながら実効性が乏しく大都市への集中は進むばかりで、今回のコロナ禍により3密リスクが顕在化し、大きく潮目が変わりつつあるのも皮肉な現象です。

さて、令和2年度兵庫県人間サイズのまちづくり賞知事賞を受賞した多可町田野口むらづくり協議会の事例は、今後「地域創生」のカタチの一つとして参考になるのでご紹介します。

田野口集落は、妙見山の裾野愛宕山（愛称ひょうたん山）の南から南西にかけて点在する34世帯85人が住む小集落で、高齢化率も55%です。そのような中で、田野口むらづくり協議会は、2000年に集落の元気づくりの拠点として、住民が憩える多目的広場を「ひょうたん山いやしの森公園」として計画し、集落の住民（延べ900人以上）が総出し、それぞれが持つ能力や技術を發揮し直営で作り上げました。花見やお祭りやグランドゴルフなど各種スポーツ大会、さらに子どもの環境学習など住民自身による維持管理の行き届いた公園で四季折々様々な行催事を開催しています。



地域の触れ合いが充実しています

また、近くの休耕田等では、協議会による「葉ぼたん」を栽培、販売により活動資金をねん出してきました。

公園がむらづくりの中心として効果的に活用されている優良な例の一つですが、公園といっても多可町の公共施設ではなく、住民が整備し管理

している100%の市民公園というのが稀有な例です。「Village is one Family!」（集落は一つの家族！）を合言葉にむらづくりを行っている集落の温かさに、最近では、町外からの移住者が増えているとのことです。

ポスト・コロナ社会での地域創生は、企業誘致や観光施設など、「ないものねだり」はせず、地域資源や集落の人の隠れた能力を活かす「あるもの探し」や先達の知恵や経験に学ぶ「振り返れば未来」を実践し「近き人悦ばば遠き人来たる」により、内発型および自立（律）型のカタチが国際的な取り組み目標でもあるSDGsにも叶うと考えます。

多可町には、こうした自律型集落が多いのが特徴ですが、今後、集落だけでなく多可町全体にとって必要となる再生エネルギーの確保、食料、水資源など生存に必要な自給を確保するため地域資源を生かす循環型経済の仕組みが整うことを期待しています。



住民による芝生貼りの様子



整備された公園

ほっと

相談員ニュース

バラの管理のお話＜冬～春＞

緑の相談員 花元 仁

【バラの作業は12月初旬から始まる】

12月初旬からツルバラ・ブッシュ系に始まり、2月中旬木立性までバラの作業は続きます。ツル系は、ツルを解き、剪定、誘引、石灰硫黄合剤散布、施肥で終了。バラ園では、高さ2m、幅4m程のフェンスの両端にツルバラ2株を植えているのが昔ながらのバラ園の定番で、フェンス一面2株で二人1日仕事です。ポール仕立てのツルバラも同様。巻き付け方は、左右巻きどちらでもいいです。ドーム型、チエーン型などの誘引出来るしっかりしたフェンスがあれば、ツルバラの仕立てはできます。また壁の場合も、ツルバラを誘引し固定する金具が付いていれば問題なく楽しめます。

スタンダード仕立てのバラも、木立性バラと同じ時期に剪定・誘引します。

【春の作業は薬剤散布から】

株をしっかり休め復活したバラは、3月下旬から薬剤散布で健康を維持します。

まずは虫。基本は、新しいシュートに着くアブラムシを繁殖させない事が重要、食物連鎖で他の虫が寄ってくるからです。粒剤の殺虫剤を根元に散布する（薬効一カ月程）か、牛乳を直接スプレーボトルで散布でも効果大です。（胸呼吸の虫には効果大）

次に病気です。乾燥するとうどんこ病。湿度が上がると灰カビ病、黒点病が出やすくなります。

植物の免疫システムは、動物と違い獲得免疫※1が無く自然免疫※2です。防御システムには、水を弾く葉を持つたりと防御性を持っていますが、葉から病原菌を入れさせない様に補助的役割をするのが予防薬の殺菌剤です。マンネブダイセン、マネージ、などの予防薬と、サブロールなどの治療薬があり、使い方が大事になります。そして、殺菌剤の効果を上げる展着剤の役割も薬剤散布にとっては非常に大事な事となります。

※1一度侵入した異物を記憶して、次に体内に侵入してきた際に攻撃する。

※2細胞表面に病原菌を感知するセンサーを設置しており、このセンサーが病原菌を認識すると、免疫応答が発動します。この免疫システムは、哺乳類を含め他の生物にも幅広く保存されている。

【意外に知らないバラ育てのワンポイント】

3年目の枝には、花芽はつかない。この理由から3年ごとに新旧交代させるという考えが出てきます。古い枝が多くなると株が老化に転じていきます。古い途中枝から新芽が伸びて太くなっている場合はまだいいのですが、細い枝しか出ていない場合は老化が進みます。ツル性でも木立性でも、新しいシュートを3年以内に出して古い枝を取る事を心掛けて下さい。



剪定前

↓ 'ストロベリー・アイス' 強健種



剪定後

高さ1/2に切る
枝を5本程度残す

** 園芸相談コーナー **

10:00～12:00 13:00～16:00
火曜日を除く毎日

TEL 078 (918) 2405
FAX 078 (919) 5186
MAIL info_midori@hyogopark.com

当分の間、電話又はファックス、メールのみの相談としていますので、ご了承ください。



園芸教室

令和3年度 令和3年4月～6月

実施日	曜日	開催時間	タイトル	講師名	受講料 【円】	受付 開始日
4/25	日	午後	◆ 器もキュートな 母の日の寄せ植え&ラッピング	日本ハンギングバスケット協会 兵庫県支部	3,100	4/ 1
4/29	木・祝	午後	◆ 明石公園の 野草を押し花で楽しむ<春>	日本自然保護協会自然観察指導員 高野 哲司	300	4/ 1
5/ 2	日	午前	◆ 明石公園の自然観察①	明石公園の自然に親しむ会 代表 兼光 たか子	100	4/15
5/ 9	日	午後	◆ フラワーアレンジ 母の日の手作りフラワーケーキ	フラワーサークル花里主宰 東田 里美	2,100	4/15
5/16	日	午後	◆ ハーブチンキづくり	ジャパンハーブサティス級インストラクター 松尾 あや子	1,100	5/ 1
5/21	金	午後	ハーブのある暮らし① ～楽しみ方、使い方色々～	ハーブ創作研究家 星川 雅子	300	5/ 1
5/28	金	午後	庭木の手入れ① ～低木の管理～	(株) あすか園芸舎 代表取締役 大西 進	100	5/15
5/30	日	午後	◆ 薬になる木・草を学ぶ <春>	(一社) 明石市薬剤師会 高橋 宏和	600	5/15
6/ 6	日	午前	◆ 明石公園の自然観察②	明石公園の自然に親しむ会 代表 兼光 たか子	100	5/15
6/13	金	午前	連続講座全3回 初夏のエルフガーデン① ～宿根草を楽しむ～	元兵庫県立大学大学院教授 城山 豊	100	6/ 1
6/20	日	午後	◆ 室内向け 多肉植物の寄せ植え	尼崎市緑化植物園 学芸員 田上 義信	2,000	6/ 1
6/25	金	午後	夏の風物詩! つりしのぶづくり	つりしのぶ園 園主 市原 誠	2,600	6/ 1
6/27	日	午後	◆ 明石公園のきのこを観察しよう	きのこ研究家 平山 吉澄	100	6/15

花緑博士へチャレンジ!!

◆印は小学生以上が対象です。対象の教室を5回以上参加した小中学生には、花緑博士の認定証を進呈します。

★★お申し込み・お問い合わせ★★
花と緑のまちづくりセンター
 TEL 078-918-2405

受付時間は、9時から17時迄です
 お申込みは、受付開始日より先着順 ※電話のみの受付

花と緑のまちづくりセンターの案内や、春からのオープンガーデン情報などをホームページ、フェイスブックからも配信しています。「ひよこはなまち」で検索、または、QRコードよりご訪問ください。



ホームページ



フェイスブック

開催場所
 花と緑のまちづくりセンター 研修室



花と緑のまちづくりセンターだより 56号

- 令和3年3月11日(年4回発行)
- 編集発行 公益財団法人兵庫県園芸・公園協会花と緑のまちづくりセンター長 福田 稔
 〒673-0847 明石市明石公園1-27 花と緑のまちづくりセンター
 TEL:078(918)2405 FAX:078(919)5186 Eメール:info_midori@hyogopark.com